

アッタプー県における不発弾処理事業(1次)(中間報告)

1. 不発弾処理活動



大型爆弾(500Lb)の識別作業中の
JMAS専門家



パイプレンチで弾底信管の除去作業
回転初動の最も緊張する瞬間



無事に弾頭信管を除去した瞬間



信管除去が困難な不発弾は部分爆破法
で安全化を図る

2. 処理技術の移譲活動



ラオスで初めて電動金ノコによる信管カッ
トの要領を教育するJMAS専門家



電動金ノコを使用してUXO LaoのSEOD
が実習(使用している不発弾は模擬弾)

● 随行指導

UXO Laoの隊員の不発弾処理に随行し、1回2～3日の行程で集中して不発弾処理の技術を移譲する。寝泊りは野外や民家を借上げ、食事は自炊しながら活動している。



発見され通報を受けた500Lb爆弾を識別中の専門家



UXO Lao隊員と一緒に道路脇で食事を摂る



宿泊は写真のような夜露を凌ぐだけの小屋で！



密林での安全化を終了し、笑顔で手搬送する隊員(女性隊員)

啓蒙教育技術移譲



布製のチャートを使っの住民への啓蒙教育の様子(過去このような方法で実施していた)



本事業でプロジェクターがN連で認められ、早速、UXO Laoの啓蒙チームにプロジェクターの使用要領について指導中の専門家